

白色偏光発光する有機EL素子の研究

ユビキタスエネルギー研究部門 デバイス機能化技術グループ ヘック・クライレ（関西センター）

小型・移動型電源技術や家電等の省エネ・省資源化技術を研究するユビキタスエネルギー研究部門において、ヘック研究員の所属するデバイス機能化技術グループでは省エネルギーのための有機光デバイスの開発を行っています。ヘック研究員はブラジルから日本に留学し、そのまま日本で就職して現在に至っています。最初、金属薄膜の研究をしていましたが、現在は有機デバイスの研究にシフトし、有機EL素子の研究を行っています。近年、有機ELや有機太陽電池が注目を集めていますが、今までのデバイスと比べ豊富な材料に基づいていることが特長の一つです。



研究室にて



ヘックさんからひとこと

私は現在、白色偏光発光するEL素子を開発するために有機材料を研究しています。比較的大きい分子でできた有機材料は分子を並べることで面白い性質（ここでは偏光）を示します。ゴールとして白色偏光発光デバイスを目指して、異なる色で光る材料との組み合わせを検討しています。高効率の白色偏光EL素子が実現すれば、省エネルギーな光源としてのポテンシャルがあります。現在の主な目標は素子の効率向上です。この問題解決のために、膨大な種類がある有機材料が私に研究されるのを待っています！

表紙

上：集積型フレキシブルCIGSサブモジュールの外観（p.7）
下：原子泉方式一次周波数標準器(NMIJ-F1)（p.19）



編集・発行
問い合わせ

独立行政法人産業技術総合研究所
広報部広報制作室

〒305-8568 つくば市梅園1-1-1 中央第2

Tel : 029-862-6217 Fax : 029-862-6212 E-mail : prpub@m.aist.go.jp

ホームページ

<http://www.aist.go.jp/>

● 本誌掲載記事の無断転載を禁じます。● 所外からの寄稿や発言内容は、必ずしも当所の見解を表明しているわけではありません。